

後志教育

No.30

後志教育研修センターより
平成22年9月16日発行
TEL0136-22-1337
FAX0136-22-2681

研修センター調査研究事業の紹介

研修センター4大事業の中に調査研究事業が位置づけられています。調査研究事業は研修センターの所員が、管内の学校教育、社会教育に関して、今日的課題をとらえそれを追求し、最終的には管内の教育力の向上に努めることをねらいにしているものであります。今回の便りでは、現在取り組まれている調査研究事業について紹介いたします。

《学校教育関係》

学習指導に関する研究委員会（古館、加藤、川本、白濱、吉尾所員）

○ 研究主題

自ら考え、伝え合う力を育む学習指導の工夫
～ 言語活動の充実を目指して ～

○ 研究の目的

「確かな学力」を育成するためには、学ぶ意欲を高めるとともに、自ら考え、伝える力を育むことが重要であると考え、「言語活動の充実」をキーワードに、「単元構成」や「学習過程」、また「より効果的な指導につながる評価」に焦点を当て、研究を推進することを目的としている

〈目指す子どもの姿〉

- 課題や問題に向かって、積極的に考える子ども
- 確かな言語の力を身につけ、豊かに表現する子ども
- 互いの考えを伝え合い、発展させ、学びを深め合う子ども

○ 研究仮説

【仮説1】

「なぜだろう」「解決したい」との思いを大切に問題解決的学習を効果的に取り入れた単元構成の工夫と単元の評価を図ることにより、「学ぶ楽しさ」を味わうとともに、自ら考える力を育むことができる。

【仮説2】

自ら考えたことを「表し、伝え、高める」活動を意図的に設定した学習過程とその指導のあり方の工夫と1単位時間の評価を図ることにより、「自己解決力」を高めるとともに思考力・判断力・表現力を育むことができる。



校内研修に関する調査研究委員会（渋谷、田中、柿原、高橋所員、瀧口協力員）

○ 本研究の目的

校内研修を活性化させ、よりよい授業研究を行うための基礎的な研修方法等の調査研究を推進することを目的としている。

○ 研究主題

「実践的な指導力向上を図る教員研修のあり方」



教員の実践的な指導力を高めるための校内研修やその支援のあり方を研究する。

○ 研究内容（3年計画の1年次）

- ・小樽後志の小中学校を対象にアンケート調査実施
- ・調査分析
- ・校内研修に関する課題の解明

※22年度 道研連共同研究発表大会+勝大会（9月16日、17日）において田中、柿原所員が中間発表予定。

《社会教育関係》

社会教育に関する調査研究委員会（小原、大島、淵野、長尾所員 協力員栄田主査）

○ 研究の目的

地域の教育力の向上をどのようにとらえるかの調査研究を行うとともに、教育力を向上させる具体的な事業や目指すべき支援体制の構築について、進むべきより効果的な社会教育事業の実施に向けての一助とすることを目的としている。

○ 研究の期間 平成21年4月～平成23年3月

- ### ○ 研究内容
- 2年次研究に当たっては、1年次研究を用いた同じ実践事例等を題材に、より効果的な取り組みを目指し、改善目標を設定し、実践による具体化から検証を繰り返し、地域の教育力向上に向けた実施ポイントと方策モデルを考察する。



訂正

研修講座の様子を講座風景ということでセンターHP、研修センターの廊下掲示また講師へ渡しております。先日、音楽科の講座風景の中で余市東中学校3年B組と表したアンケート内容がありましたが、3年A組であったことがわかりました。訂正願います。改めて、関係者にお詫び申し上げます。

教頭先生、研究係の方、校内回覧よろしくお願ひします。